



甌島列島は鹿児島県川内市西方の天草灘南部海域にあって上甌島・中甌島・下甌島の3主島とそれに伴う小島嶼からなる。地質的にみるとこの列島は臼杵—八代構造線の北側にあって西南日本内帯の南縁部を占め西日本弧と琉球弧の地質関係を知るうえに重要な位置に当る。

本図幅地域は甌島列島の北半部であって上甌島・中甌島及び下甌島北端部並びに双子島等その周辺の小島を含む。これらの島嶼は高い海崖をもつ沈水海岸で特徴づけられるが上甌島北東岸のトンボロ（陸繋砂州）や汽水性潟湖を伴う砂州の発達などもあって多様な海岸地形を呈しすぐれた景観をみせる。

島々を構成する地層・岩石は主として白亜紀後期の姫浦層群と古第三紀と推定される上甌島層群でありこれらの基盤岩として傾家帯に属すると考えられている片麻状石英内緑岩と角閃岩が上甌島東方の双子島に露出する。以上の岩石に貫入して中新世の石英閃緑岩と脈岩がある。

姫浦層群はアンモナイトやイノセラムス等の化石を含む海成堆積層から主として構成され上部に非海成相を伴う。同層群を傾斜不整合に被覆する上甌島層群はその下部に発達した非海成の紫赤色泥岩によって特徴づけられ上部は浅海成堆積物からなる。この層群からはいまだに地質時代を明確に指示する化石が産しないため厳密に古第三系に属するかどうかは決定し難いが層序・岩相の特徴が天草地方の古第三系に酷似することから古第三系下部に属することはほぼ間違いないであろう。

両層群はNE—SW 性褶曲軸をもって複向斜をなし NE—SWとNW—SE両系統の断層により切断される。断層のうち上甌島・双子島間を走る断層層は見かけの落差が極めて大きくこれは南方の宇治諸島より更に南の海底まで連続することが海底地質から確認されている。また島嶼間の水道を走るNW—SE 系統の落差が大きい正断層群は宇治諸島北西方の男女海盆に存在する同方向の断層群と関係が深いと考えられる。本図幅地域の地質構造は西日本弧と琉球弧の接合域における新生代構造発達史の解明に大きな手がかりのひとつとなるであろう。

なお本報告では姫浦・上甌島両層群の堆積相についての詳しい記載と層相解析がなされている。

5 万分の 1 地質図幅の新刊

中 甌
NAKAKOSHIKI

5 万分の 1 地質図幅
地域地質研究報告

著 者 井上英二・田中啓策・寺岡易司
 発 行 工業技術院 地質調査所
 取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401
 そのほか全国主要書店
 販売価格 2,390円

地 質 ニ ュ ー ス	第 340 号	12 月 号
	定 価 ¥ 540	千 実 費
昭和57年12月1日	発 行	
編 集	工業技術院 地質調査所	
発 行 人	林 久	雄 社
発 行 所	株式会社 実業公報社	
印 刷	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	出版事業部